

麻生区 結核通信

平成26年度版

平成26年11月

編集・発行：麻生区保健福祉センター地域保健福祉課地域健康支援係
(電話 044-965-5157)

結核は
過去の病気では
ありません

過去に「国民病」と恐れられていた結核も、長い間に国を挙げて予防や治療に対する取り組みを行ってきた結果、その罹患率は激減してきました。

しかし、依然として、毎年2万人以上の結核患者が発生し、2000人以上の方が命を落とす、日本の重大な感染症です。平成25年の一年間に、麻生区では新たに26人の方が結核患者として登録されました。高齢者の方が多いですが、働き盛りの年齢層にも発生しています。

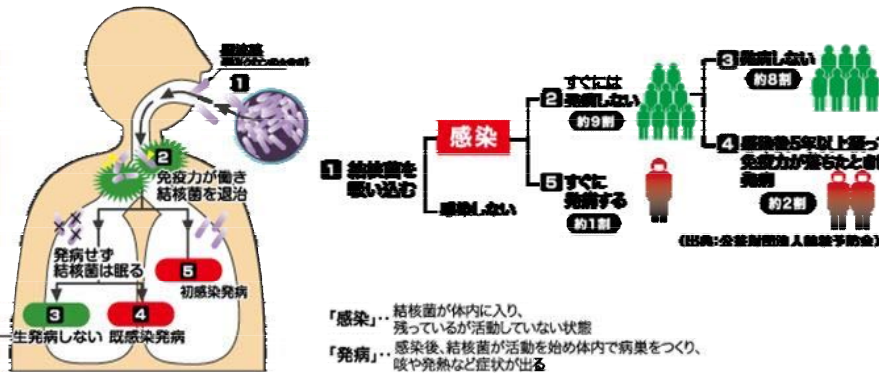
結核について正しい知識を持ちましょう

結核に感染しても、必ず発病するわけではありません。
また、結核に「感染」すること、「発病」することは違います。

高齢者は、かつて結核が流行していた時代に、感染をうけた方が多いと報告されています(既感染率は80歳代で50%以上)。感染後、何年もの間、体内で封じ込められていた結核菌が、免疫力の低下などに伴い、発病することが問題になっています。ただし、感染をしているだけの状態では、症状もなく、他の人に感染を広げることはありません。下の図のように結核菌に感染をしても、発病する方は10~20%程度と言われています。

また発病しても、すべての方が入院するわけではありません。結核登録患者のうち、約半数の方は、排菌(痰のなかに結核菌が存在する状態)しているため、入院が必要になりますが、残りの半数は、排菌していない状態なので、通院による治療が可能です。結核菌は、ゆっくり発育する菌であるため、治療には、抗結核薬を3~4種類、少なくとも6か月以上の期間が必要になります。長期にわたる服薬は大変なことです。自己判断による服薬中断や飲んだり飲まなかったりすると、薬剤耐性をまねく恐れがありますので、注意しましょう。

「感染」と「発病」って?



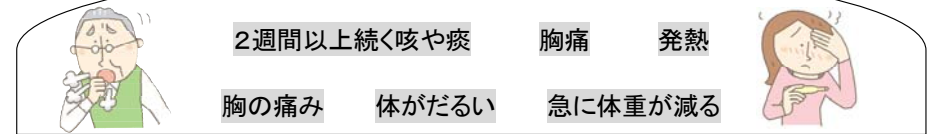
結核の予防と早期発見・早期治療を!

結核にかかりやすい人とは?

- 乳幼児
- 免疫力が低下している高齢者
- 免疫力が落ちている状態の人
(糖尿病や副腎皮質ホルモン薬内服者、低栄養状態の人など)
- 胃を切除している人
- 慢性呼吸器疾患(肺炎腫や肺炎など)を持っている人
- …などが、発病しやすいとされています。



こんな症状があれば、早めの受診を!



※高齢者の場合、咳などの症状として現れない場合があります。体のだるさや急な体重減少に注意が必要です。細菌性肺炎や誤嚥性肺炎とも区別が付きにくいこともあります。結核を少しでも疑ったら、胸部レントゲン検査および、喀痰検査(塗抹検査・遺伝子検査・培養検査)を少なくとも3回連続して実施し、個室管理のうえ、感染予防に努めましょう。喀痰塗抹検査では、結核菌のほか非結核性抗酸菌も陽性と判定されるため、遺伝子検査や培養検査による同定検査を合わせて実施します。結核は、万が一発症したとしても、**早期発見・早期治療により治せる病気**です。排菌(痰の中に結核菌が存在する状態)があり、感染力が高い状態でも、治療開始後、2か月程度経過すれば、周囲への感染力はほとんどない状態にまで、菌量を減らすことができると言われていますので、多くの場合、退院して日常生活に戻ることができます。

保健福祉センターの役割

保健福祉センターでは、患者が確実に内服治療をしていけるための服薬管理(DOTS:直接服薬確認療法)や治療終了後の定期健診、接触者健診(患者が咳やくしゃみをしていた時期に、一緒に過ごす機会の多かった方の中から、感染のリスクの高い方を保健所で選んで行う健診)などの支援を行っています。また、結核に関する衛生教育の実施や相談なども随時行っていますので、お気軽にお問合せ下さい。



結核だけにかかわらず自分自身の健康を守る為に、

必ず1年に1回は
胸部レントゲン検査を含めた健康診断を受けましょう。